

の大部分は義勇隊に編入されて居る、青島附近の汁方(?)及び松口(?)に在る紡績工場の日本人社員は去る八日以来家族と共に青島市内に移り、極く少數の者のみが工場に残留して居る、、、(此處電文不明)、、、は日本陸戦隊が上陸を決定した際陸戦隊員に配與する爲青島の地圖を多數註文したと傳へられる  
尙上海の新聞紙上に掲載された八月三日に陸戦隊が上陸したとの報道は根據のないものである事が判つた



情報委員會八・一一 情報第三號

大山事件と佛紙論調

「同盟來電(不發表)」

パリ十日發電

北支事變に對するパリ新聞の興味は茲二三日以來割合に薄れて來たが、十日朝になつて再び盛返へして來た、それは日奮五千名の北平入城(北平アヴァス電)とか、上海大山事件(上海アヴァス電又は上海中央通訊社電)の結果である上海事件に付いてはアヴァス電だけでも敷通あつて、内容も喰違ひ或は日本士官二名と言ひ或はトラツクに便乗した日本兵だと言つてゐるが、動機は日本側が無理に飛行場に入らうと策したのを支那番兵が制止したのに對し日本側が發砲した爲めだと言ふに一致してゐる、中央通訊は右の動機等の外日本軍の飛行場附近への接頭に對する抗議の意味を含んだ支那地方官憲の通告及び日本總領事館のコミュニケを合せ報じてゐる、此の他ドイツは日獨防共協定に對する支那の参加を勧誘するものでないと云ふドイツ政府の支那大使に對する通告(出所不明)及び在支ドイツ軍事顧問の進退に付て彼等は本國招還どころでなく現に支那軍當局と策戦計畫を樹立中だと言ふドイツ大使館の聲明(南京ラジオ)は新聞の注意を惹いてゐる

211

秘

情報委員會八・二〇 情報第十號

一 外國無線局發信電報

上海 (XGX) 十日午前一時

(UP) 特派員メリツシユ上海發

二名の日本海軍軍人(將校一名、水兵一名)が九日夜虹橋飛行場入口附近に於て支那保安隊一部隊との衝突に於て死去した事は、日支紛争を解決する爲に早も外交交渉が開始される希望を吹き飛ばしてしまつた。九日には上海の實業界は實業部長吳鼎昌が七日に北支から到着し事件の外交機關を通じての解決に全力を盡すと發表した川越日本大使との折衝に當るであらう事を信じ樂觀的な見込を立て、居たが虹橋事件に實に此の日の後に起つたのである。吳鼎昌は南京政付の有力者の一人で又日本官邊から最も敬意を拂はれて居る支那人の一人である。吳鼎昌は八日朝上海に到着したもので、消息通は、吳の目的は破局を避ける希望を以て外交交渉を開始し得る基礎に就いての南京政府の見解を川越大使に齎す事にあると信じてゐる、而して外交部當局も川越大使と共に此の破局は差し迫つて居ると述べて居る、觀察者は今夜、虹橋事件はきつと交渉の即時開始を不可能にし、完全に外交官を阻むであらうと憂慮して居る。